

論点

英 自爆テロ

英中部マンチェスターで開かれていた米有名女性歌手のコンサートがテロの標的となった。劇場やレストランが襲撃された2015年11月のパリ同時多発テロと同様、無防備な市民の集う「ソフトターゲット」が狙われた。テロが相次ぎ、社会の緊張が高まる欧州。無差別テロを防ぐことはできるのか。日本の対策は。

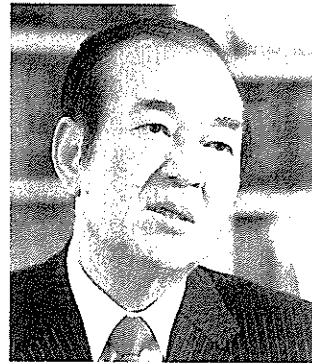
欧州各地で続発

欧州ではイラク戦争後、2004年のマドリード列車爆破(191人死亡)、05年のロンドン地下鉄・バス爆破(52人死亡)が相次ぎ、イスラム過激派が犯行声明を出した。過激派組織「イスラム国」(IS)の勢力伸長を受け、15年にパリ同時多発テロ(130人死亡)、16年にベルギー同時テロ(32人死亡)、仏ニース・テロ(86人死亡)が続発。ドイツでも銃乱射やテロが起きた。15年に欧州連合(EU)域内で逮捕されたテロ容疑者は計1077人に上る。

山内 昌之

明治大特任教授(中東・イスラム地域研究)

やまうち・まさゆき
1947年札幌市生まれ。東京大中東地域研究センター長(教授)などを経て現職。東京大名誉教授。著書に「中東複合危機から第三次世界大戦へ」(PHP新書)など。



＝内藤絵美撮影

今回のテロの特徴は、警備が厳しいコンサート会場の中でなく、比較的緩い外で引き起こされたことだ。英国ではテロに対し、全国で厳重な警備、監視態勢が敷かれており、こうしたイベント会場に入るには厳格な検査を受ける。ただ、犯人からすれば、テロ決行の場所は会場の中でも外でもよく、社会に衝撃を与えたという意味で「成功」したのである。「どこでも何でも起こりうる」ことが改めて示されたことの衝撃は大きい。

犯人はどんな人間か、どんな狙いがあったのか、詳細はまだ判明していない。犯人の狙いはともかく、会場内でパニック状態が起きたり、避難したりする人々の衝撃的な映像が世界中に広がり、人々に大きな恐怖や衝撃を与えたことは疑いない。コンサート参加者の年齢層は若く、若者にテロの無差別性を知らしめ、平和で安定した社会に生きている欧米市民にテロの恐怖心を与えた。

また、英中部マンチェスターという場所が狙われたことも特徴的だ。産業革命の中心地として栄え、資本主義を象徴するサッカーや音楽活動が盛んな都市だ。欧州最大規模の室内会場、しかもスター性を備えた世界的な人気歌手によるコンサートが標的になった。

「中東・欧州複合危機」の様相

常識的、合理的に考えれば、シリア内戦など現在の中東情勢と絡んでいるとの見方も否定できない。過激派組織「イスラム国」(IS)が何らかの形で関わった可能性がある。ISが直接的に犯人に指示したかどうかはともかく、欧州にはISのシンパや協力者で作るネットワークが張り巡らされている。ISに感化された犯人が起こした可能性が高い。

シリアでは最近、ISにとって最大の拠点である北部ラッカの戦況が悪化するなど、中東での領土的な意味での支配権は狭くなってきた。ISは、日常的に戦闘を繰り返しているシリアやイラクだけではなく、遠く離れたパリやブリュッセルも「戦場」ととらえている。いま起きているのは、かつての国家間の戦争とは形態が異なることは言うまでもない。

ISは、戦況が思わしくないとため「遠隔地戦線」と位置づける欧州の一角でテロを起こし、衝撃を与えようとしたのかもしれない。その意味で、難民やテロリストの移動を通し、中東と欧州の危機が結びつく「中東・欧州複合危機」の一例として説明できるだろう。

今回のテロでは1人の容疑者が自爆したことが明らかになっているが、協力者が存在する可能性もある。

過去にISが関与したテロでは、直後に犯行声明が出たケースが多かったが、今回は声明発表まで半日以上かかり、やや遅かったと思われる。欧州や米国、日本といった西側諸国をじらすかのような動きだ。あえて情報を出すのを遅らせ、これらの国の一般市民の不安を助長させる狙いがあるのかもしれない。

最終的に、中東やイスラム社会といった要素が絡まない個人による自爆の可能性も排除できない。今後の捜査の進展を待ち、複合的な分析をする必要がある。

【聞き手・山本太一】